仏教はすごい教えだ

諸行無常・諸法無我・涅槃寂静
お釈迦様の教えは本当だった。

先日新聞紙面の中に興味深い記事を見つけました。少々長くて硬いのですが、意を間違えるといけませんので、そのまま紹介してみます。（山陰中央新報 6/14）

『食品偽装、毒ギョウザ、使い回し。食をめぐる問題の根は深い。狂牛病禍も終わっていない。お隣、韓国では米国産牛肉輸入再開に抗議するデモが起こっている。

そもそも論から考えたい。なぜ私たちは食べ続けなければならないのか。人間がエンジンだとすれば食物はガソリン。

このたとえは正しいか。否。食物を単なるエネルギー源とだけとらえると食べることの大切な意味を見失ってしまう。

七十年ほど前、生化学者ルドルフ・シェーンハイマーは、食物の成分に標識をつけて、食べるとそれがどこへ行くか調べた。一部は確かにエネルギー源となったが、半分以上はバラバラの分子になったあと、体の一部と化して溶け込んでしまった。

一方、もともと身体にあった分子は壊されて捨てられていた。つまり、生物は進んで、自らの体を分解し、食物の分子と交換していたのである。絶え間なく。

交換に例外はない。固い骨。脳細胞。おなかの周りの体脂肪。どんな部位でも、その中身は常に壊され、運び出され、又作り直される。この自転車操業こそが生きていると言うことであり、その回転を止めないために私たちは食べ続けなければならない。

一年前と今日のあなたは分子レベルでは別人である。私たちは更新され続けている。

シェーンハイマーは、これを動的平衡と呼んだ。

生物をエンジンのような機械としてではなく、動きの状態ととらえる。

この生命観にたつと食の安全・安心の問題にも別の視座が開けてくる。

まず第一に食物の分子はそのまま私たちの分子になるのだから、生物の構成成分以外の混入物は、動的平衡に負荷をかけるものとなる。ここに中身の、プロセスの見える食を選ぶべき生物学的根拠がある。

第二に、食物とはすべて他の生物の一部であり、食物を通して、私たちは環境と直接連鎖している。だから自分の健康を考えることは、環境を考えることであり、逆もまた真となる。

分子生物学者　福岡伸一』

いかがですか。

私は頑張って生きている。健康で長生きが何より大事で、私が私がと我を張り、自分の存在、いのちは自分のもの。永遠不滅と勘違いしがちな現代人にとって科学は万能で確かなものと思われています。

しかし、現代科学の先端で分かって来たことは、私のものと信じてきた身体は骨も皮も脳でさえも一瞬たりと留まらない。

豚肉を食べると豚のいのちと、魚を食べると魚のいのちと同化してしまう。というのです。

まさに縁起の道理のとおり、私そのものを作ってくれている全てのいのちは平等で尊いわけで、関わりあい、支えあって存在しているのです。

お釈迦様は全ての物は同じ所に留まらず、変わり続けているとお説きになりました。

又、存在の実体があると思っていても、動き続け変化しているから、全ての物に実体はない。全て幻と消えてしまう危ういものといわれました。何と現代の科学で証明していることと同じではありませんか。

いつもお聴聞しているお釈迦様の説法の中にいのちの答えがすでにありました。

私たちは何を頼りに生きていけばいいのか自分で確かなものを探す力はありません。お釈迦様はそんな私たちのために、阿弥陀様の救いをお悟りになり、諸行無常・諸法無我・涅槃寂静の仏のみ教えを説法してくださいました。

約二千五百年も前のことです。

すごいと思いませんか。

合　掌

（坊守　記）

お釈迦様は宇宙人かも？

仏婦活動報告

二十年度仏婦総会・研修会を終えて

仏婦会長　清水　フジ子

梅雨入り発表以来雨が降らない毎日でしたが、やっと梅雨らしい天気になり、アジサイが水色、ピンク、白と美しく目を楽しませてくれます。

去る五月二十四日の瑞穂町明覚寺奥田真隆先生をご講師にお迎えしました仏婦総会には皆様ようこそお参りして下さいました。また、総会において役員改選を致しましたところ、ほぼ全員留任となり、役員一同協力して引き続きみ仏様のお手伝いをさせて頂くことになりました。会員の皆様の温かいご支援を頂き、今年も共に仏婦活動が出来ますことを感謝申し上げます。どうぞ、力不足の私をお育て下さいます様、お願い致します。

さて、毎日聞こえてくる悲しいニュース、誰でも良いからと次から次へと起こる大惨事、恐ろしい世の中となりました。私達はもっともっと「命の大切さ」人間として生まれさせて頂いたことに感謝し一日一日を大切に、「お蔭様」「ありがとうございます」と言える人生を送りたいと思います。

仏教婦人として聞いて聞いて一生聴聞を、そして何回も聞いているうちに、気付かせて頂くことが大きな財産であり、宝物であることを喜び感謝し、子供や、孫たちに伝えながら、お法の輪を拡げて参りたいと思います。

合　掌

新役員紹介

監事嘉久志　田中紗枝子

嘉久志地区役員　井廻芳子

平成 20 年度 福屋組仏婦幹部研修会

6 月 14 日(土)旭町清岸寺会所（崇徳仏婦の当番）で 20 年度福屋組仏婦幹部研修会が開催され、副住職と当山仏婦 10 名がお参りしました。

研修テーマは「おつとめ・お荘厳・作法について」仁摩町宅野・玉泉寺住職小笠原弘之師のご指導で改めてしっかり勉強させてもらいました。

背中を押していただいて

千田町　伊藤　篤美

平成二十年一月十五日それは突然の出来事でした。主人が脳梗塞で入院。五十一歳二カ月でした。いつもと同じように仕事に出掛けた主人。なんで早く気付いてあげられなかったのかと、自分を責める毎日でした。

今の状況を受け入れるのに、主人にも私にも、とても時間が必要でした。自由を奪われ、言葉を失って落ち込んでいる主人の背中をさすりながら、涙する毎日でした。当り前のように明日が来ると思って疑った事などありませんでした。結婚して二十六年ずっと主人にすがって生きて来ました。これからどうして生きて行けば良いのかと頭の中は真っ白。こんな運命が待っているなんてと落ち込みました。当り前、明日もあさってもあるさと思って生きていた自分を反省しました。

そんなある日、悲しみのどん底にいた私に衝撃が走りました。

浄光寺の御院家さんと坊守さんが来られ、お見舞にと病室の壁に掛けて下さった迦羅羅カレンダー一月の言葉**「今、ここ、この身を生きる以外に私の生はない」**この言葉を目にした時、生きなくては、いのちをいただいたんだもの、もう泣くまい、すべてを受け入れようと素直に思いました。それからは、毎日がありがたく、不思議なくらい気持ちが軽くなりました。負けたらいけん、なんとかなるさ、いのちがあるんだもん。生きる力を戴き、一生心に残る言葉に出会う事が出来ました。また、たくさんの皆様に温かい声を掛けていただいて、主人も私も幸せ者だと感謝しています。

大きな力に助けられているんだ、独りじゃないんだと嬉しいです。まだ涙の出る日もあります。落ち込む日もあります。でも、又笑える日もあるさ、頑張ろうと思います。この病気を戴いてからは、小さな幸せを見つけてはお蔭様と喜んでいます。お寺にご縁のある身に生まれて来た事をありがたいと感謝の毎日です。

合　掌